平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	家族援助論 (Family Support)	授業コード	E045501
担当教員名	坂口　昌宏	科目ナンバリングコード	E20934
配当学年	2	開講期	通年
必修・選択区分	コース必修 　こども・福祉コース 選択 　全コース(2015年度) 　地域マネジメントコース(2016年度以降) 　Bソリューションコース(2016年度以降) 　会計ファイナンスコース(2016年度以降) 　スポーツビジネスコース(2016年度以降)	単位数	2
履修上の注意または履修条件	こども・福祉マネジメントコースのコース必修科目です。必ず履修してください。 ※原則として、コミュニティワーク演習とコミュニティワーク実習との合同演習のため、該当年次のみ受講可能となります。		
受講心得	・グループワークを中心に行いますので、他のメンバーに迷惑をかけないよう無遅刻・無欠席を心がけてください。 ・グループワーク時は、ディスカッションや作業等に積極的に取り組むことを心がけてください。		
教科書	なし		
参考文献及び指定図書	授業中に指定します。		
関連科目	地域福祉論・児童福祉論・高齢者福祉論・相談援助の基盤と専門職A・社会調査法・社会福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱなど。		

授業の目的	こども・福祉マネジメントコースでは、経済や経営の知識をベースに、「子ども」「高齢者」「障がい者」など福祉に関する幅広い視点から専門知識やスキルを習得するためには、地域社会が抱える多種多様な課題を知り、体験交流活動で実感し、その課題解決に向けた必要な知識の修得、そして実際にステークホルダーとの協働による課題解決型学修を実施している。そこで、本科目は、地域での体験交流活動を中心に、直接、当事者と関わることで、様々な福祉分野の問題点を知り、その解決に向けての取組みの方法を学ぶとともに基礎的な知識・技術を身につける。
授業の概要	この演習やこども・福祉マネジメントコースのCOC事業を通して、地域の抱えている問題点や対象者の抱えている課題などを学ぶ。それから、PBLを通して、地域実情に応じて異なる課題を把握・整理し、その解決方法(必要なもの)を検討する、ステークホルダーとの協働活動を体験し、実践方法などについても学ぶ。※外部講師による講演に変更になる場合があります。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： オリエンテーション 本授業の意義、目的の説明・社会人基礎力について 子ども・福祉マネジメントコースの目指す人材像について ※社会人基礎力の調査	シラバスで授業計画等の確認をする。(予習)(30分) 本授業の意義、目的等内容整理(復習)(1時間30分)
第 2 週 ： 地域社会をフィールドとして学ぶ意義	COC事業の目的等について(調べ学習)(予習)(1時間30分) 地域の実情に合わせた取組みについて内容整理(復習)(1時間30分)

こども・福祉マネジメントコースで取組むCOC事業の意味 地域の実情を踏まえて活動を実施する意義など	
第 3 週 ： 多学年合同で学ぶ意義・PBL学修に向けての取組み① グループ活動等を通して、他学年の専門的知識や社会人基礎力等について学ぶ。 地域診断（地域の年齢構成・地域の特徴の調べ学習など）の内容とその方法	地域診断について（調べ学習） （予習）（1時間30分） 地域診断の内容等の整理（復習）（1時間30分）
第 4 週 ： PBL学修に向けての取組み② 地域診断の実践①（地域の年齢構成など）	実践地域の情報収集（予習）（1時間30分） 地域診断の内容等の整理（復習）（1時間30分）
第 5 週 ： PBL学修に向けての取組み③ 地域診断の実践②（地域の特性など）	実践地域の情報収集（予習）（1時間30分） 地域診断の内容等の整理（復習）（1時間30分）
第 6 週 ： PBL学修に向けての取組み④ 地域診断の実践③（地域課題の整理など）	実践地域の情報収集（予習）（1時間30分） 地域診断の内容等の整理（復習）（1時間30分）
第 7 週 ： PBL学修に向けての取組み⑤ 地域診断の実践④（地域課題に対する支援（機関・施設・制度など））	実践地域の支援機関等の情報収集（予習）（1時間30分） 支援機関等の内容の整理（復習）（1時間30分）
第 8 週 ： PBL学修に向けての取組み⑥ 地域診断の実践⑤（地域診断の整理（PP作成等））	報告に向けての内容等整理（予習）（1時間30分） 報告に向けての原稿等の作成（復習）（1時間30分）
第 9 週 ： PBL学修に向けての取組み⑦ 地域診断の実践⑥（地域診断の整理（PP作成等））	報告に向けての原稿等の作成（予習）（1時間30分） 報告に向けて原稿読み等（復習）（1時間30分）
第 10 週 ： PBL学修に向けての取組み⑧ 地域診断の実践⑦報告会（地域診断の結果の共有）	報告に向けて原稿読み等（復習）（1時間30分） 他のチームの報告内容等のまとめ（復習）（1時間30分）

第 11 週 ： PBL学修に向けての取組み⑨ 地域診断の実践⑦報告会（地域診断の結果の共有）	報告に向けて原稿読み等（復習）（1時間30分） 他のチームの報告内容等のまとめ（復習）（1時間30分）
第 12 週 ： PBL学修に向けての取組み⑩ 報告会振り返り・地域課題の再整理	他のチームの報告内容等のまとめ（予習）（1時間30分） 地域を拠点とする施設・機関の情報収集（復習）（1時間30分）
第 13 週 ： PBL1－① 地域課題解決に向けた施設・機関（事前学習）	地域を拠点とする施設・機関の情報収集（予習）（1時間30分） 施設・機関についての内容整理（復習）（1時間30分）
第 14 週 ： PBL1－② 地域課題解決に向けた施設・機関（体験交流活動に向けた事前指導及びインタビュー内容等の作成）	インタビュー等の内容の検討（予習）（1時間30分） 施設・機関の役割確認等（復習）（1時間30分）
第 15 週 ： PBL1－③ 地域課題解決に向けた施設・機関（体験交流活動）※夏季休業中に実施する場合もある。	前期の活動の振り返り（資料参照）（予習）（1時間30分） 施設・機関のインタビュー等のまとめ（復習）（1時間30分）
第 16 週 ： PBL1－④ 体験交流活動の振り返り・インタビュー内容等の整理	施設・機関のインタビュー等のまとめ（予習）（1時間30分） 施設・機関の課題整理（復習）（1時間30分）
第 17 週 ： PBL1－⑤ 地域課題に対する施設・機関の役割・課題整理	施設・機関の課題整理（予習）（1時間30分） 施設・機関に関する内容整理（復習）（1時間30分）
第 18 週 ： PBL1－⑥	施設・機関に関する内容整理（予習）（1時間30分） 報告会に向けての原稿等作成（復習）（1時間30分）

地域課題に対する施設・機関に関する内容整理（PP作成等）	
第 19 週 ： PBL1－⑦ 地域課題に対する施設・機関に関する内容整理（PP作成等）	報告会に向けての原稿等作成（予習・復習）（1時間30分・1時間30分）
第 20 週 ： PBL1－⑧ 地域課題に対する施設・機関に関する報告会（情報の共有）	報告会に向けての原稿等作成（予習）（1時間30分） 他のグループの報告の内容整理（復習）（1時間30分）
第 21 週 ： PBL1－⑨ 報告会（振り返り）・施設・機関の情報の再整理	他のグループの報告の内容整理（予習）（1時間30分） 報告会の内容等まとめ（復習）（1時間30分）
第 22 週 ： PBL1－⑩ 地域の実情に合わせた地域課題解決に向けた施設・機関の役割とは何か。	施設・機関の役割の検討（予習）（1時間30分） グループ内での意見等をまとめる（復習）（1時間30分）
第 23 週 ： PBL2－① 地域を拠点とする施設・機関の専門職の役割とは何か。	専門職の役割の検討（予習）（1時間30分） グループ内での意見等をまとめる（復習）（1時間30分）
第 24 週 ： PBL2－② 地域を拠点とする施設・機関の専門職に求められるものとは何か。	これからの課題の整理（予習）（1時間30分） グループ内での意見等をまとめる（復習）（1時間30分）
第 25 週 ： PBL2－③ 地域を拠点とする施設・機関の専門職に求められるもの（インタビュー調査）	インタビュー調査の内容等を検討（予習）（1時間30分） インタビューでの回答等の整理（復習）（1時間30分）
第 26 週 ： PBL2－④ 地域を拠点とする施設・機関の専門職に求められるもの（調査データ整理）	インタビューでの回答等の整理（予習）（1時間30分） 調査データ等の整理（復習）（1時間30分）

第 27 週 ： PBL2-⑤ 地域を拠点とする専門職について（PP作成等）	これまでのPBLの内容整理（予習）（1時間30分） 報告会に向けての原稿等作成（復習）（1時間30分）
第 28 週 ： PBL2ー⑥ 地域を拠点とする専門職について（PP作成等）	報告会に向けての原稿等作成（予習・復習）（1時間30分・1時間30分）
第 29 週 ： PBL2ー⑦ 最終報告会	報告会に向けての原稿等作成（予習）（1時間30分） 他のグループの報告内容等の整理（復習）（1時間30分）
第 30 週 ： PBL（振り返り） PBL・協働活動の企画立案・運営実施・役割分担等での問題点・改善点等を振り返る。 ※社会人基礎力の調査	他のグループの報告内容等の整理（予習）（1時間30分）

授業の運営方法	（1）授業の形式	「演習等形式」
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー Ⅰ：ステークホルダーとの協働による課題解決型学修科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	グループ活動に積極的に参加することができる。グループ活動での気づきや内容を文章化することができる。
【知識・理解】	地域における様々な福祉分野の問題点を知り、その解決に向けての基礎知識を身に着けることができる。
【技能・表現・コミュニケーション】	参加者を活動に巻き込み（働きかけ力）、企画内容を理解し、それを実行できる（実行力）。
【思考・判断・創造】	グループ内での意見を聴き（傾聴力）、その内容を文章化できる。グループ活動を通して、相手の立場を踏まえつつ、自分なりの意見を発現できる（主体性）。

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	**期末試験・中間確認等（テスト）**	**レポート・作品等（提出物）**	**発表・その他（無形成果）**	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		**10点**	**30点**	
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。		**30点**		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			**10点**	

【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		**10点**	**10点**

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

〇配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 （提出物）	リアクションペーパー、報告レジュメ、PPデータ等の提出物をもとに総合的に判断します。 ［Sレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 ［Aレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 ［Bレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 ［Cレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他 （無形成果）	講義・グループ活動・報告会等をもとに総合的に判断します。 ［Sレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 ［Aレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 ［Bレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 ［Cレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。